

私が身近に感じている税金と言えば、消費税である。私が小学生の時、百円ショップで買い物をすると、百八円だった。そして、私が中学生になると百十円に変わった。消費税は、何のために税率が変わっていくのか不思議で仕方がなかった。

私には、七十五歳になる祖父がいる。祖父は、地元の木を伐採して原木を作り、自然の中で育て、香りの良い地元産に拘った椎茸を栽培している。その椎茸は、地元の道の駅などで販売している。祖父は、

「道の駅の説明会でインボイス制度についての勉強会があつてな、登録をせんとあかん。」と話していた。私は、何の事を言っているのか意味がわからなかった。調べてみると、インボイス制度とは、売り手が買い手に対して正確な適用税率や消費税を伝えるための手段で、令和五年十月から導入される制度である。

税金は支払うものであって自分が国に納めていると言う認識は低いように感じる。しかし、祖父は、

「働いている者は、しっかり納税する義務がある。いつまで、働けるか分からん。元気な間は、仕事するんや。」

と話していた。私が大人になり働いた時は、祖父のように納税することが社会に貢献することに繋がると思う。

祖父は、お酒が大好きで仕事の後のビールは、欠かすことができない。そのビールなどのお酒にも酒税や消費税がかかっている。

「お酒の種類によつてな、かかってくる税率も違う。今は、これがいいんや。」と言つて上機嫌でビールを飲んでいる祖父は、物知りだと思った。酒税には、酒類の製造方法などに注目して分類し、それぞれの税率を決めている。私も二十歳になつてお酒を飲めるようになれば、一緒にお酒を飲みたい。

そんな元気な祖父も三年前に病気で入院していた時期がある。手術を受け今では元気に仕事ができるまで回復した。その時にも医療費の助成を受け、高額療養費制度を利用した。この制度は、高額な医療費を一定の金額までの支払いに抑えてくれる、とてもありがたい制度だ。世界には、治療を受けられない人達もいる中で、安心して医療を受けられる。それを可能にしているのは、税金があるからだ。日頃から納めている税が社会全体を助ける力となり、自分を助けてくれることに繋がる。

税金は、公共施設や学校の教科書、医療費、コロナワクチンなど様々なことに使われている。普段、当たり前前に生活している中に、たくさんの税の恩恵を受けている。税金は、国民の一人一人がお金を出し合い日本をより良くしようとする素晴らしい制度である。税金がその時代に合った税率に変更するのは、暮らしを支えていくために必要だと思う。私は、祖父が元気に暮らせるのも税金のお陰であり、とても感謝している。だから、私もしっかりと納税をして社会に恩返ししたい。